令和　　3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270200932		
法人名	特定非営利活動法人　縁会		
事業所名	ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ　ゆかりの里		
所在地	千葉市花見川区千種町380番地6		
自己評価作成日	令和4年3月5日	評価結果市町村受理日	令和4年6月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7
訪問調査日	令和4年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本的人権の保護、家庭的生活環境、生きがい支援を理念として主体は利用者という意識をもって、自己決定を尊重したケアを目指しています。ご家族が気軽にこれるホームを目指していましたが、コロナ禍の中玄関先で短時間の面会となっており思うようにできておりません。 また、利用者とボランティアと共に散歩を日課としておりますが、前述同様で思うように活動が出来ておりません。現在はコロナ禍でも、利用者が楽しく過ごせるように歌を歌うなどのホーム内の日課活動に力を注いでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは住宅、学校、農園、公園に囲まれた場所に位置し、小規模多機能型居宅介護事業所を併設している。福祉に貢献したいと開設したホームは、地域の人達の共感を呼び、多くの支援者に支えられている。家族代表、住民、自治会代表、複数のボランティア、高等学校の副校長、農園園長など10数名～20名が参加する運営推進会議は地域に密着した運営形態となっている。現在は書面会議の形式をとっているが、会議メンバーからは様々な意見をもらっている。一人ひとりの人格、人生を尊重し、出来る限り自分でしてもらうような支援に努めている。月2回の訪問診療、毎週の訪問看護や歯科衛生士のケアなどで医療健康面の支援体制を整え、利用者が重度化した場合は適切な入院先を紹介したり、本人・家族の希望によっては看取りの体制も整えている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
		○	3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
		○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本的人権の保護、家庭的な環境、生き甲斐支援を理念としている。事務所・休憩室に掲示し軌道修正している。	理念は事業計画にも明記して、周知している。理念に沿って、利用者にできる事はしてもらう、できるからといって、荷重にならないように調整するなど、様子を見ながら適切な支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中、地域との交流は保たれず、ボランティアの受け入れもできていない。早く終息する事を願い以前の生活を取り戻したい。	ホームは地域の自治会活動や行事に参加し、地域の人々は散歩ボランティアなどでホームの活動に参加している。地元高校の福祉課の生徒や先生との交流も始まっている。現在はコロナ禍で自粛中の活動が多く、再開が待たれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解を地域と積み上げていきたいと思うがコロナ禍で難しい。管理者は各所に呼ばれて事業所職員を対象に話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議はやまびこ推進会議と名ずけ現在は書面による会議となり寂しいです。千種町の地域の方達より積極的に意見を頂いております。	家族代表、地域住民、自治会代表、ボランテイア、高等学校副校長、農園園長など10数名～20名が参加する運営推進会議は運営方針に賛同する多くの地域関係者の参加で開催されている。現在は書面による会議であるが、様々な意見が寄せられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者に風呂場の様子を見ていただくなど相談している。あんしんケアセンターとは日頃より連携をとっている。	地域包括支援センターは運営推進会議に参加しており、利用者の入居相談もしている。市とは感染症対策などを相談し、担当者とは話し合える関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	推進会議の折、身体拘束をしないケアを題材とし紹介している。玄関の施錠は開放しておりましたが、行方不明者がでたり行政指導をいただき現在施錠しております。	「身体拘束廃止に関する指針」を定めている。言葉による行動制限、車いすを使った行動制限、玄関の施錠など日頃起こりう得る課題を、職員会議や研修、運営推進会議で取り上げ、話し合っている。	すでに、職員会議や運営推進会議で検討している内容を「身体拘束廃止委員会」として議事録を作成し、職員間で共有するとよいと思われる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	会議の中では毎回虐待防止を取り入れている。一人ひとりの見守り強化、細かいことを記録に残す。小さなあざや傷など、どんな時に発生したか会議の中で意見交換し再発防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の中に成年後見制度を利用している方がおり、話し合う機会が多い。管理者は社会福祉士として在宅の方を成年後見制度を受任している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	制度改正時は書類で説明、来苑時は口頭で説明、利用料変更時はご理解納得の上、書類取り交わす。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	やまびこ推進会議にご家族も参加、来苑時は利用者の様子等意見交換している。広報発行時写真の同意は快く理解を得ている。	家族面会時や敬老会、花見会、クリスマス会など家族も参加する行事の折、話し合う機会をつくっている。また、連絡事項などで、個別に連絡を取る時などにも意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間の提案意見等は会議の中で話し合い議事録に記載、全員が目を通し納得の上反映させている。	職員会議は理事長、ホーム管理者と職員が参加して、毎月開催している。運営上の報告、課題などを話し合い、物品の購入、食事の提供方法や看取りについても話し合っている。当日不参加の職員は、会議録を読んで情報を共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入職時就業規則・給与面又理念等説明し職場環境大切と話し合う。頑張っている方には言葉を添えて給与面にも多少差をつけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議の中で新人が入るとオリエンテションし注意事項や認知症について話し合う。人権の尊重・緊急時の対応・身体拘束再認識しながら進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会加入し横のつながりを大切にしている。勉強会・サービスの向上に努めて多様な状況に学びが沢山あります。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	リーダーがしっかり指導、本人の立場で試行錯誤しながら不安や訴えをくみ取る工夫をしている。ミヤンマーから入られた方達も3年目を迎えすっかりなじみお国柄でしょうか働き者で利用者にも親切です。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時困っていること・不安な事ご家族から伺い試行錯誤しながら本人の意向に添えるように確認しながら関係作りに努めている。。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談受付時生活面・健康面・経済面の状況把握し必要なサービスが利用できるように話し合う。入居待ちますという方には連携を取り合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に食事の準備・盛り付けや洗濯もの干し、取り込みなどを手伝っていただく。生活の中で馴染んできたことや得意な事生かしながら、ありがとうがいきかう職場です。		
19		○本人は共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に連れ出しをお願いしたりご利用者の生活が豊かになるように支えていただきたいが現在はコロナ禍で自粛しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の中、何もできておりませんが、在宅にいる時と同じように買い物や美容院にいける様にしたい。年賀状やお手紙などで交流をしている。	親せきや友人の訪問があったり、家族との墓参り、外食にもよく出かけていたが、コロナ禍で中断している。家族との面会は限られた場所で、短時間で実施している。年賀状や手紙を出す支援などで、関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格やお互いの共通性を把握し気の合う者同士席を同じにしたり共同生活が保たれるように工夫している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後にもご家族が懐かしいと遊びに来たり過去に紹介した施設の事で相談に来たり支援に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に思いや暮らしを伺い、意識して日頃の会話の中で意向を汲み取り、元気な方には縫物・壁面飾りをお願いしている	利用者の思いや意向は日々のケアの中で把握に努め、家族に聞くこともある。意思疎通が困難な利用者は、様子を観察し、表情や行動から把握している。得られた情報はケース記録に残し、職員間で共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の皆様は昔はこうだったと話がいきかう。田んぼは1反2反ではなく1町、2町もあるから嫌になっちゃう、働かなければなんないと毎日の様に話し聞いている方もいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中は全員ホールで過ごし、疲れると部屋で横になる。「私はなんでここにいるの」何もわからないと毎日聞きに来る方もおられる。職員間情報共有し現状把握に努める。手伝っていただくことも一人ひとりの能力により変えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者・ご家族の意向を取り入れ担当者会議で意見を交わし現状に即した介護計画書を作成している。評価や見なおしも行いご家族にも確認いただいている。	介護計画作成にあたり担当者会議を開き、聞き取った家族の意向や職員意見、記録等を参考にケアマネジャーが介護計画を作成している。モニタリングは3か月に一度実施し、利用者の状況を見ながら見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや介護記録等で日々の様子を把握して職員間の情報を共有し実践にいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況、希望を聞いたり体調の変化やその時々の買い物代行や衣類の補充など必要な支援ができる様に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ以前は地域の行事や様々なボランティアの協力を得て散歩・傾聴・音楽・読み聞かせ等多様であった。又以前に戻れたら、利用者の暮らしが豊かになるように支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療月2回、気になる箇所は事前に連絡、通院も利用者に応じて支援している。健康管理、異常の早期発見ができる様に連携に努めている。服薬も職員の意見を取り入れて支援している。	利用者の主治医はホームの協力医療機関の医師になっており、月2回の訪問診療で身体状況を診てもらっている。また、週1回の訪問看護で、利用者の爪切りや耳掃除など職員ではできないことをしてもらっている。急な体調変化や夜間の急変は、協力医に直接連絡できる体制である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と契約し日々の健康状態をみていただく。必要時に迅速適切な対応ができる様に24時間相談体制がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	認知症があり病院で対応できないという方もいたり、又精神薬が入ると進んでしまう方もいたり過去には服薬で対応できるのであれば早めの退院をお願いしたこともある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に思いや暮らしを伺い、意識して日頃の会話の中で意向を汲み取り、その後も必要時話合い、事業所での対応又限界についても充分説明している。その状況が近づいた場合職員間・医師・看護師も含め方針を共有できるように努めている。	重度化した場合の対応に関わる指針を整備しており、入居時に家族に説明して同意を得ている。利用者の状況がターミナルに近づいた時に、再度家族の意向を確認し、医師や看護師、職員の連携体制を整えて、看取りケアをおこなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本となる緊急時マニアルはあるが、それと同時に一人体制時は無理なので理事長・管理者・主任・職場に近い職員が駆けつけることになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時には近隣の協力体制ができている。消防訓練にも声掛けにより協力体制あり。	今年度は火災を想定した避難訓練を2回実施した。ホームは自治会にも入会し、近隣との関係は良好であり、災害時の協力体制はできている。備蓄品は水や主食、副菜など3日分の用意をしており、定期的に確認している。また、利用者用に防災頭巾や職員用のヘルメットの準備もある	いつ起こるか分からない災害に慌てずに対応できるように、様々な状況を想定した訓練の実施や、訓練後には課題を見つけ、次回に繋げることが期待される。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	仲間から認知症の方に対し常に罵声を浴びている方に対し寄り添っていたが、最近は反対に罵声の方に寄り添った方が良いと気づかされた。	法人の理念で利用者の基本的人権の保護を謳っており、一人ひとりを尊重した支援に取り組んでいる。利用者の言うことを否定をしないよう気を付けている。また、ホーム通信に載せる写真は家族の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けや問いかけは自己決定できるように利用者目線で話かけ、拒否があった場合は無理には進めない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の日課に添って行動しているが、本人の意思を考慮に入れ満足感得られるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容はつき月1度程度こだわりや好み、尊重しながら、清潔やおしゃれを心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	4名の方は積極的にお手伝いをしてくれている。食器洗い・食器拭き・テーブル拭き・盛り付けは毎日の日課になっている。今日は美味しそうだ！話を聞くこともある。	食事はご飯、みそ汁、お浸し、サラダなどはホームで調理しており、主菜、副菜は取り寄せで提供している。毎日届く食材の宅配業者の献立は旬の食材を取り入れており、季節を感じることができる。また、利用者の希望を反映した献立も提供する機会を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝昼夕、起床時、午前・午後のﾃｲﾀｲﾑ時、水分量は1200～1500cc目安にしている。食事量が少ない方にはｴﾝｼｭﾜ缶提供し、健康管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指導の下、食後の歯磨き入れ歯の手入れ、磨き残しなど指導いただきながら支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとり排泄パターンを把握し、排泄の失敗が無いよう声掛け誘導をおこない夜間でもトイレでの排泄が出来るよう支援している。	日中はトイレでの排泄を支援している。自立の利用者も多く、職員は一人ひとりの排泄リズムを把握し声かけをしている。また、夜間帯は声掛けで誘導したり、おむつを使用するなど、個々に応じて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チエック表で状況把握、看護師・医師と連携を取り個々にあった排便コントロールを行っている。牛乳・寒天を取り入れ便秘予防に取り組む。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上、入浴拒否の方もおり職員は声掛け、誘導のタイミングで脱衣所に行けば皆様と同じようにゆっくり湯につかり気持ちよさそうである。	週２～３回の入浴支援をしている。入りたくないという利用者には、声掛けの仕方を工夫したりタイミングを見て支援している。また、入浴剤やゆず湯などで、楽しい入浴になるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	早寝早起きの習慣が出来ており、お昼寝をする方は2～3名19時から20時半と早めの就寝である。朝は早起きで6時30分頃からお腹すいたといわれ慌ただしいスタートである。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病歴、内服薬の用法、副作用について理解。次の日のお薬について遅番が用意し夜勤者が確認、当日の朝昼夕の服薬はそれぞれの担当者が確認し症状の変化を観察し必要時看護師・医師に報告相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いを喜んで受けてくれる人、縫物をしてくれる人、歌の好きな人又散歩の好きな人。ゲーム・積み木崩しなどそれぞれである。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により一人ひとりの希望には添えていない。春～秋、暖かい日はマスクを着け近い公園を職員数名ずつお散歩にいくこともある。冬場は出来ていない。	コロナ禍前は、ボランティアの協力を得て外出などもできていた。自粛生活が続き外出の機会が減ってしまったが、感染対策をして近隣の散歩に出かけている。また、併設の事業所の送迎時に、利用者も一緒にドライブがてら出かけることもある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の件は話に出るがお金を持ちたいとか買いたい等は忘れている。以前は買い物は見て楽しむ方達でした。現在お一人財布に現金を入れている方がおります。		
51		ga 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に添い日常的な会話を電話でしたり、手紙を書く方2名おります。届いた手紙を何度も見たり私達にも見せてくれます。交流関係ができる様に今後も支援していきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬場は採光を取り入れたホールは暖かい。時間によってはまぶしいので場所を移動したりしている。掲示板には利用者と職員の合作品が四季折々掲示している。	リビングはログハウスのような造りで天井が高く、日光も入り、明るく居心地の良い場所となっている。利用者はリビングで過ごすことが多く、ぬり絵やゲーム、風船バレー、歌を歌うなどして楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	最近ホールのソファに座る人がいない。仲間の中には「自分の席に座っていなさい。うろうろ歩かない。みんなも我慢して座っている」と指示する方がいて職員が毎日説明するがその方には届かない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋にはなじみの家具をおいたり、趣味の作品を飾ったり、職員に褒められると嬉しそうである。	エアコンやクロゼット、防火カーテンはホームで設置している。それぞれ使い慣れたベッドやタンス、テレビなどの他、仏壇を持ってきている利用者もおり、安心して過ごせる部屋造りをしている。掃除は利用者と職員でおこなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の力量に応じてお手伝いをお願いしている。できる限り自立した生活が安全に送れるように工夫している。		